

kama ii

着工時、堰のかかる河道は 60m 前後であったが、現在 100m 以上に拡大している。これは右岸（対岸ベスード側）に砂利堆積が著しく、岩盤側の主流が常に拡大傾向にあるからだ。今回は、ベスード側傍流の閉塞が洪水によって生じた場合でも堰体が安定するように、堰長・堰幅ともに拡張強化する。従来、交通路がないために、右岸側（砂州と堰の接合部）強化が難航したが、この問題も解決できると考えている。

Sandbar at Present

35 m

10-15m

65 m

洪水吐き

堰越流線

70-75m

現石積み域

30 m

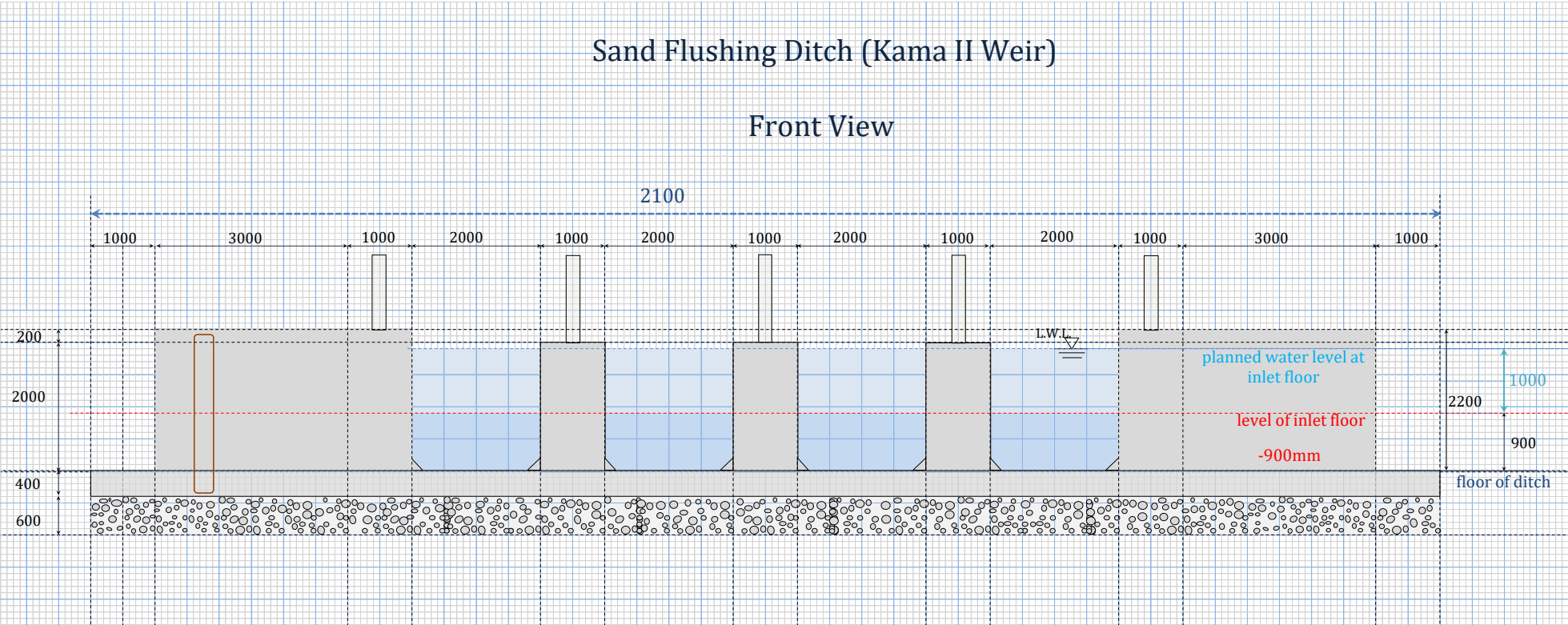
土砂吐き

Google Earth

Image © 2017 Google

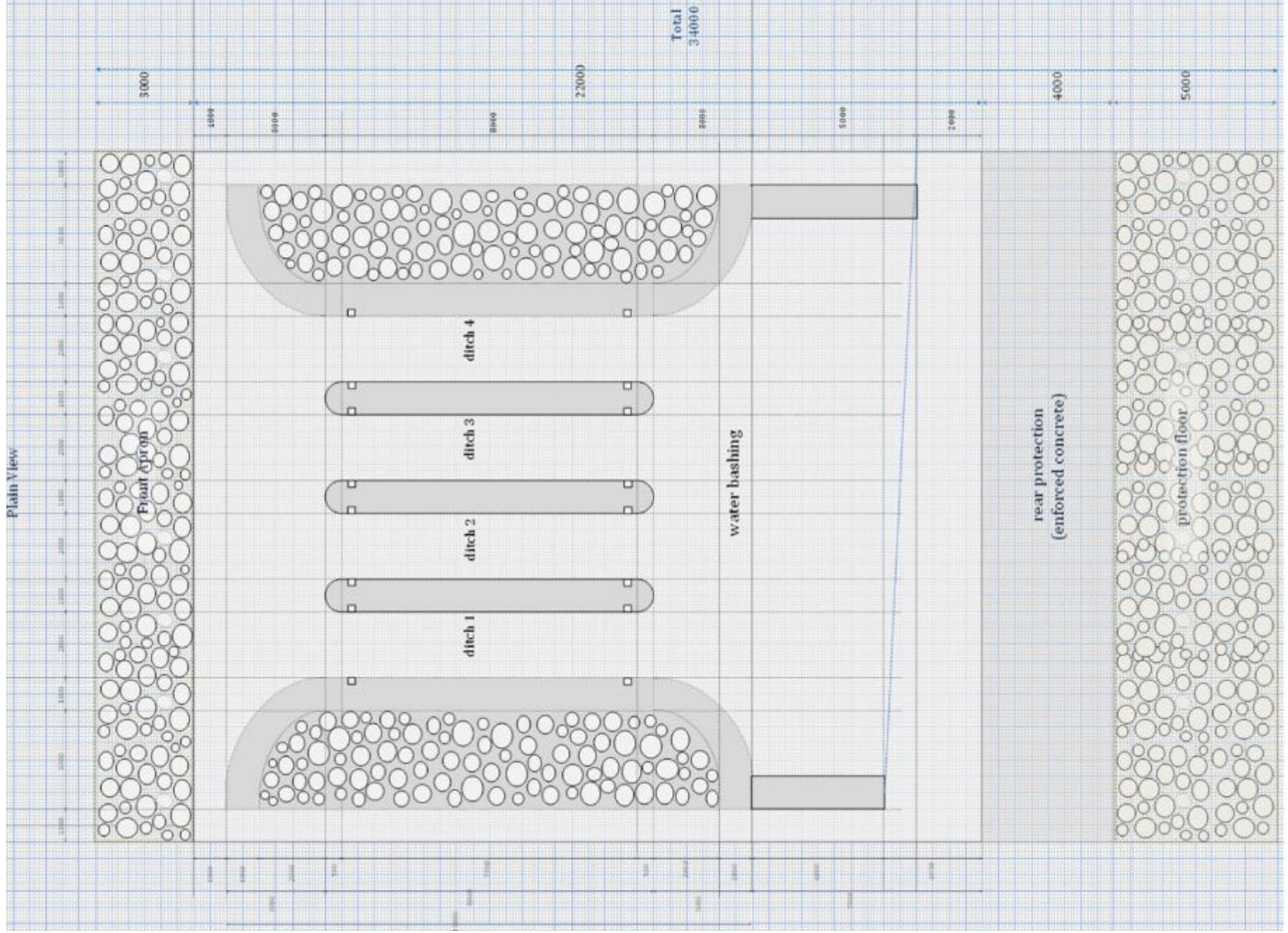
固定堰部分はマルワリード II（カチャラ）の堰とほとんど同じである。冬期の河川水量の 20～25%前後を受け持てば、同様の結果が得られると期待される。

土砂吐き＝可動堰





土砂吐き＝可動堰 平面図





現カマ第二堰。三度にわたる改修でずいぶん安定はしている。今回は異常低水位の不安もあって、部分固定堰（鉄筋コンクリート製の土砂吐き）を導入、万全を期する。現堰幅約 140m、堰長 25～70m。河道幅が狭いので堰幅を増すのは限界があり、固定堰と洪水吐を組織的に組み合わせて対処するもの。2017 年 3 月 31 日

